

絵葉書にみる明治イマジユリの形成と 国粹主義の時代へ（一九〇六～一八）

資料提供 山田俊幸
執筆 安田政彦

明治維新で近代化・西洋化をはたした日本は、明治末に、天皇イメージを制度化するため、様々なプロモーションをおこなった。日露戦争（卅七・八年戦役）後の大演習、靖国神社と伊勢神宮の定位、今上帝（明治天皇）と東宮（大正天皇）の肖像の流布などが、それである。

以下では、山田俊幸氏所蔵の絵葉書から、日露戦争後の国家イマジユリー形成の一端をうかがう。

○ミカドの肖像と軍国化―陸軍大演習

No.0001は、明治四四年（一九一）十一月に福岡県久留米で行われた陸軍大演習。緞帳風の地柄に行在所となった福岡県立明善校の写真を配する。切手は紫の一銭五厘。

No.0002は水戸―宇都宮間の地図絵葉書でエンボス処理。明治四十年十一月十九日陸軍特別大演習記念の茨城県印と下館局印がある。

新式の三八式野砲の能力が実証されたのは、このときのことか。

No.0003は、明治四三年十一月十七日陸軍特別大演習記念印がある。鶴と金色の稲穂をあしらった中に岡山城天守閣と岡山公園中ノ島の写真が配されている。小豆色一銭五厘切手。

No.0004は同じく明治四三年陸軍特別大演習記念印があり、統監部と行在所の写真。小豆色一銭五厘切手。兜と弓矢の絵を

No.0005も同じ。記念印及び小豆色一銭五厘切手。兜と弓矢の絵を背景に演習実況写真、東軍司令官西大将と西軍司令官大将貞愛親王の写真が配されている。いずれも彩色。伏見宮貞愛親王は伏見宮邦家親王第十四王子。明治三七年陸軍大将で大本営付。翌年には軍事参議官となっている。大正三年には元帥。



No.0004



No.0001



No.0005



No.0002



No.0003

陸軍大演習

○ミカドの肖像と軍国化―靖国神社

東京都千代田区にある靖国神社は、近代以降の日本が関係した国内外の事変・戦争において、朝廷側及び日本政府側で戦役に付し、戦没した軍人・軍属等を、顕彰・崇敬等の目的で祭神として祀る神社である。明治二年（一八六九）に戊辰戦争での朝廷方戦死者を慰霊するため、東京招魂社として創建された。一八七九年に「靖国神社」に改称。同時に別格官幣社となった。戦前においては神社行政を総括した内務省ではなく、陸軍省および海軍省によって共同管理される特殊な存在であり、国家神道の象徴として捉えられていた。

No0006は明治四二年五月一日の靖国神社臨時祭。東京日本橋区数寄屋ともゑ商会の記念印あり。大村益次郎像のエンボス仕上げ。No0007は旭日と海軍のシンボル化した錨があしらわれている。菊の御紋の記念印あり。左下に「明治四十二年五月臨時祭委員」とあり、「非売品」とみえる。日の出を背景に右に神殿の写真相が配される。左には明治七年一月二十七日の御製和歌が記されている。

○ミカドの肖像と軍国化―伊勢神宮

No0008は、明治四四年十月の「伊勢神宮遷宮記念」で、内宮正殿と徴古館。No0009は、「伊勢神宮遷宮記念」で、伊勢神宮祭主賀陽宮殿下の写真。

賀陽宮は、明治中期に久邇宮朝彦親王の第二王子邦憲王が、父宮がかつて称していた宮号を受け継いで、新しく創設した宮家である。明治二五年（一八九二年）結婚にあたり新たな宮家設立を明治天皇に請願し勅許を得、賀陽宮を称した。明治二八年（一八九五年）に伊勢神宮祭主に就任。明治四二年（一九〇九年）、四二歳で薨去。前面に賀陽宮を描いたところに強く皇室をイメージさせる。No0010も同じく、内宮御正殿と内宮献納白石賽曳車。伊勢神宮のお札を背景中央に描いてイメージを強調している。

No0011は、薄茶色の額縁様に「内宮神苑一の鳥居」の写真、左に「御造営（五十鈴川）御木曳」の写真相を配する。左下隅に丸囲いで「御山杉」とある。No0012は、伊勢神宮内宮御正殿をエンボス仕上げ。「忝も天覧を賜う」朱印あり。「The most holy place Gegu, Ise Jingu.」の英文表記がある。No.0013も同じ絵葉書の外宮。「The most holy place Naigu, Ise Jingu.」の英文表記がある。No0014は「神宮式年御遷宮記念」。右に皇大神宮、左に豊受大神宮の絵を配する。



No.0010



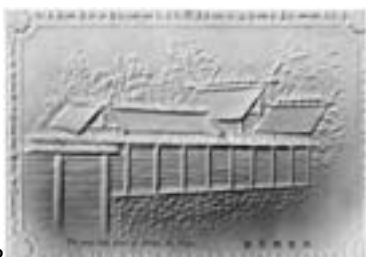
No.0006



No.0011



No.0007



No.0012



No.0008



No.0013



No.0014



No.0009

靖国神社・伊勢神宮

○ミカドの肖像と軍国化―皇太子巡啓

No0015は「国母陛下御還曆記念」。大正天皇の母昭憲皇太后は従一位左大臣一条忠香の三女美子（はるこ）である。お印の藤を背景に、一條家と皇居二重橋の写真が配される。左下に一條家の家紋下がり藤がある。No0016は「修徳小学校御臨幸三十年記念」で、明治四十年十一月修徳同窓会とみえる。絵は明治天皇が下京第十八組下京修徳小学校門を騎馬で出ようとするところ。

No0017は薄茶色の一銭五厘切手に明治四十年六月「皇太子殿下陰道行啓記念」の浜田局の記念印があり、旭日旗と碇のデザインを背景に、東郷大将と戦利艦アリヨール（現名石見）の写真が配されている。このとき初めて「御写真」が下賜されている。東郷平八郎は、このとき海軍大将で軍令部長として随行了た。

No0018は、「明治四十年十一月皇太子殿下大分県行問記念」の印あり。赤地に菊の御紋を中央に配し、城の櫓と松の木立の海岸の写真が配されている。No0019は明治天皇の騎乗の姿で、下に「先帝陛下（明治天皇）御愛馬金華山に召されたる御英姿」と赤字で説明がある。

No0020は、明治四一年九月の記念印がある。皇太子（大正天皇）御巡啓記念。金色の鳳凰に縁取られた中に皇太子の大礼服姿の写真を配する。東北六県への巡啓は、地方改良運動（日露戦争後の農村疲弊のため、自助努力による町村統合強化と振興を目指した）の一

環でもあった。訪問に前後してインフラ整備が行われるとともに、巡啓を記憶に留めるため、「御写真」下賜と絵葉書が発売された。

No0021は、「明治四四年皇太子北海道行啓記念」印がある。赤地に金色の菊の御紋を上部に松の絵柄を背景に羊蹄山を描く。山陰、韓国行啓に次ぐ公式行啓で、天皇名代とされた。このとき、当時「旧土人」と呼ばれたアイヌが奉迎に強制的に多数動員され、皇太子と接することによって「和人」と同じ「臣民」としての自覚を促されたといわれる（以上、原武史「大正天皇」）。

当時、活発元気だった皇太子の巡啓は、軍事演習や地方改良などの目的を有しながら、見える皇太子・次期天皇のイメージ作りに重要な働きをした。絵葉書はその一端を担った新しいメディアであったのである。



No.0019



No.0015



No.0020



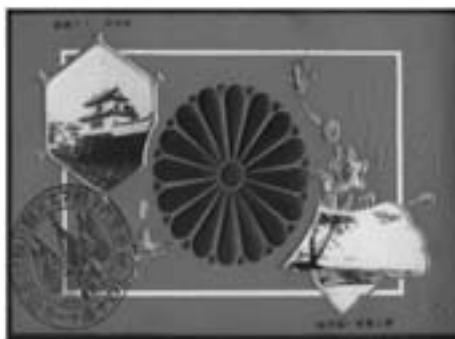
No.0016



No.0017



No.0021



No.0018

ミカドの肖像

○ミカドの肖像と軍国化―御大典

大正天皇は一九一五年十一月十日、京都御所で皇祖に神器・皇位の継承を告げる大札を挙行した。大正天皇は明治天皇の第三皇子で、時に三六歳。皇后は節子、三一歳であった。翌年より体調を崩して政務が滞りがちになり、国会開催には開催詔書を丸めて遠眼鏡をまねた、など精神障害を思わせるような風聞が密かにおこなわれた。しかし、近年、原武史氏が否定している。

庶民は、日露戦争後の閉塞感から、新しい時代への期待を抱き、大正天皇即位を歓迎した。東京市では、各所に作られた奉祝門を、花電車がぐぐり抜けた。

花電車は奉祝・記念のために美しく飾って運転する電車のこと、電動からくりやイルミネーションが当時の人々の人気を呼んだ。日本最初の花電車は明治三十七年（一九〇四）九月二日、日露戦争の遼陽一部占領記念のために走ったのが最初だとされている。以後、博覧会・戦勝記念・皇族の記念日などに頻繁に行われた。

大正期の東京市では、大正天皇御大典のほか、大正博覧会デー祝賀（大正三年）、立太子礼奉祝（大正五年）、三大祝典記念（大正八年）、東宮殿下御成婚奉祝（大正十三年）などに走り、大阪市でも立太子礼奉祝や東宮殿下御成婚奉祝、京都市では大正天皇御大典のおりなどに走った。

No.0022は参謀本部前の有栖川宮殿下銅像。下に「The

Headquarter Staff (Bronze Statue of Prince Arisugawa) といふ。熾仁（たるひと）親王は、和宮の婚約者であったが、朝幕融和政策のため離別したことで知られるが、戊辰戦争では東征大総督、維新後は皇族の重鎮として天皇を補佐し、その名代として活躍した。参謀本部の改革につくし、日清戦争には総参謀長として天皇を補佐した。六一歳国葬をもって葬られた。

No0023は、「京都市立染織学校 京都市電図」である。京都市立染織学校は、明治十九年（一八八六）九月創立の京都染工講習所を母体として二七年十月設立され、大正八年（一九一九）四月に京都市立工業学校と改称している。現在の京都市立洛陽工業高等学校。

No0024以下は花電車。万歳太平楽。No0025は奉祝門。No0026は菊花車。No0027は文武官である。いずれも彩色写真絵葉書。



No.0025



No.0022



No.0026



No.0023



No.0027



No.0024

○ミカドの肖像と軍国化―貴族院

No.0028は正門、全景。No.0029は玉座正面。No.0030は玉座側面。No.0031は議長席並びに演壇、議席・傍聴席で、「貴族院議員一同は熱き同情を以て傷病諸士に対し慰問の誠意を表す」とある。この絵葉書の目的が示されている。No.0032は階上御便殿。

○博覧会の隆盛―東京勸業博覧会

博覧会は、内外に国威を示す場であった。物品流通の経済的活性化のためのもであった。博覧会による、この文化交流のイメージは、日露戦争で冷え切ったが、バブル経済以後の社会に、新しい希望を与えるものであった。

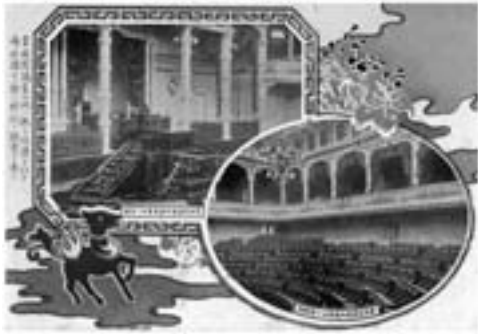
東京府勸業博覧会は、明治四十年（一九〇七）三月二十日～六月二十日の間、東京上野公園において開設された。会場は上野公園の中央即ち博物館前旧五号館跡一帯の平地および竹の台、四軒寺跡三万七千坪を第一会場とし、旧馬見所跡の全部および不忍池周囲の北半部一万二千坪を第二会場とし、博物館横図書館前の平地二千二百坪を第三会場とした。第一会場は一号館より五号館、美術館、蔬菜館、赤十字社出品館、第二会場は外国製品館、機械館、台湾館、発動機室、三菱館、瓦斯会社出品館、鈴木鉄工所出品館、田中商会出品館、水族館。第三会場は体育館であった。午前七時各館開扉、午

前八時各門開扉、午後六時居館閉鎖、午後七時居門閉鎖。初日の入場者は総計一万一九四人。平日は大人十銭、子供五銭、日曜日及び大祭日は大人十五銭、子供七銭、一枚の観覧券を第一、第二、第三の各会場と三組にわけた。当時の新聞には初日を描写して、「一天拭ふが如き日本晴の好天気なりしかば、（中略）九時頃に至りたれば、左しも広きを誇りし第一号中庭はフロックコート、スルクハットを以て埋められ、殆んど立錫の余地なき光景を呈したり」としている（『明治ニユース事典』Ⅷ、毎日コミュニケーションズ、一九八六年）。

この博覧会の状況は、この年六月から朝日新聞に連載された漱石の小説「虞美人草」中に巧みにとり入れられた。

No.0033はクリーム色地に天女の図柄。裝飾橋の写真。「東京勸業博覧会」の記念印がある。No.0034は蝶々型に社殿の写真。同じく「東京勸業博覧会」の記念印。No.0035は、外国館の水彩風景画。No.0036は、第一号館の水彩風景画。いずれも明治四十年三月二十日開場」とある。

No.0037は不忍池畔の外国館。No.0038は万国旗を背景にした外国館夜景の絵。No.0039は中央に東京勸業博覧会協会会長男爵千家尊福。左に副会長尾崎行雄。右に審査総長男爵曾根荒助の写真を配する。千家尊福は第八十代出雲国造、官司。貴族院議員。東京府知事等を歴任し、明治四一年司法大臣に任ぜられるなどした。尾崎行雄は昭和二七年（一九五二）総選挙まで連続二五回当選した「憲政の神様」。明治三六年より四五年まで東京市長。曾根荒助は司法大



No.0031



No.0028



No.0032



No.0029



No.0030

臣ほか種々の大臣を歴任。日露戦争では大蔵大臣として戦費調達にあたった。枢密顧問官、韓国副統監、統監などを歴任した。No.0040は赤地に第一号館の絵が描かれている。

○博覧会の隆盛―第十回関西府県連合共進会記念

博覧会の歴史とも言えるのが江戸時代後期に盛んに行われた物産会。本草会、博物会などと呼ばれるが、動植物や鉱物を中心に展示するもので、薬草などを研究していた本草学者が主催していた。当時、名古屋の本草学者は日本の最高水準にあったという。

「博覧会」という言葉が使われるようになったのは明治になってからである。明治四年十月十日～十一月十一日、京都・西本願寺で開かれた「京都博覧会」が日本最初の博覧会で、「和漢古器を陳列」した。次いで十月二十日より両国万八楼において、動植金石など古今中外の物品が展覧された。同年十一月には十一日から五日間、名古屋大須の総見寺で「名古屋博覧会」が開催された。古代の珍物天造の商品中外新製の諸器機その他禽獣草木虫などが展示された。四年後の明治七年にも、東別院で名古屋博覧会が開かれている。この時には、東京の博覧会で出品された名古屋城の金鯱も展示されている。このころの博覧会はまだ江戸時代の物産会の面影を残してはいたものの、文明化を象徴する催しであったという。

その後、博覧会は勸業博覧会、共進会という名称で、産業振興を

目的に開かれるようになる。

第十回関西府県連合共進会は、明治四三年三月十六日～同年六月十三日、名古屋開府三百年を記念して愛知県主催で名古屋市鶴舞公園で行われた。「関西府県連合共進会」は明治十六年に大阪府で開催されて以来、関西各県が持ち回りで数年ごとに開催されてきた。第一〇回には三府二八県が参加、約十三万点が出品され、入場者数は当時の名古屋の人口が約四〇万人に対して約二六〇万人に達し、関西府県連合共進会最大規模となった。各県からの出品物は産業別に、更に県ごとに区分けされて展示された。

鶴舞公園の造成や、埋め立て土砂の掘削された精進川（現在の新堀川）など名古屋の街作りにも大きな影響を与えた。

No.0041は製糸館。蚕をエンボス加工であしらう。

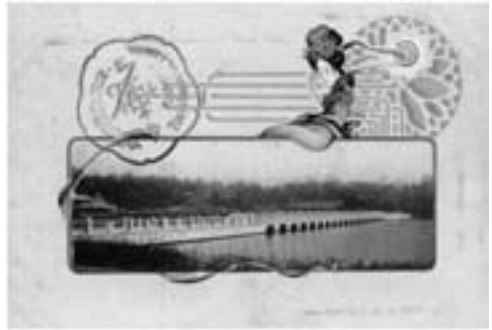
No.0042は正門イルミネーション。No.0043は胡蝶池より林業館を望む。No.0044は特許館。No.0045は右に噴水塔。左に本館イルミネーション。No.0046は右に音楽堂。左に場内中ノ島庭園。No.0047は、（名古屋開催）第十回府県連合共進会の正門。No.0048は右に消失前の名古屋城。左は台湾館。No.0049は待賓館。金閣寺風の造り。いずれもエンボス加工をあしらう。

No.0050は前面の一部。開催前の写真なのか、水たまりの路面が見て取れる。No.0051は正門。建築途中の写真か、門右に足場がみえる。No.0052は特許館。No.0053は前面。No.0054は機械館。いずれも写真。

その他、No.0055は第九回会場正面のイラスト。左上に一九〇七年



No.0036



No.0033



No.0034



No.0037



No.0035

の記念印。No.0056には外宮正殿と内宮神苑の写真。右上に第九回共進会一九〇七年の記念印。

○博覧会の隆盛―その他の博覧会

No.0057は「大正三年（一九一四）三月東京大正博覧会」の記念印あり。第一会場、美人島旅行館の写真。

No.0058は「明治四三年前橋共進会」記念印あり。群馬妙義山の絵柄。小豆色の一円五厘切手。

前橋共進会は明治四三年九月十七日から二ヵ月間にわたって前橋市で関東甲信越・東北地区による一府十四県連合共進会。共進会は開催府県にとっては全国にピールする好機となるので、誘致合戦が激しく、群馬県での開催は十三回目にあたった。主会場はいまの県民会館の敷地があてられ、前橋公園内には貴賓館（臨江閣別館）が建設された。共進会は電気文明の祭典でもあり、会場はイルミネーションが輝いたほか、前橋―渋川―伊香保間の馬車鉄道が軌道電車となった。桂太郎首相・皇族はじめ来場者は九四万人余に達した。

No.0059は第五回内国博覧会記念。株式会社村井兄弟商会売店高塔。左上には「喫煙所十二ヶ所ノ内」と記す喫煙所風景を描く。明治三六年、大阪の天王寺会場を中心に開催された「第五回内国勸業博覧会」、日本国内だけでなく、海外諸国の出品も並んだ、事実上、日本で初めての万国博覧会であった。イルミネーションが施された西

洋風建築物、自動車やタイプライターなどの珍しい展示物、またメリーゴラウンドといったアトラクションが設置され、博覧会は連日、大盛況であった。博覧会終了後も、跡地は天王寺公園や新世界ルナパークとして、長らく大阪の名所となった（大阪市立図書館イメージ情報データベース）。

No.0060は「明治四十年九月京城博覧会開会式記念」印あり。右に伊藤博文統監、左に鶴原京城博覧会長の写真。中央下に三越のマークがある。

明治四三年に開催された日英博覧会は、日本・英国の日英同盟締結により、日本の威信を懸けた明治期最後最大の博覧会であった。一九一〇年大日英博覧会が開催され、日本と日本国民について数多くの英国人の知るところとなる。

当時の新聞は、「此の博覧会が日英親交上は勿論、通商其他に及ぼす影響に就ては、（中略）本邦商品の新販路を開拓せるあり」として、その経済効果を高く評価した。

No.0061は平安絵巻を模したなかに、御所車の輪の中に英国国旗をあしらう。

No.0062は襖張り紙扇風に富士と獅子が描かれている。明治四三年五月十四日、日英博覧会記念の東京印がある。小豆色の一円五厘切手。



No.0041



No.0038



No.0042



No.0039



No.0040



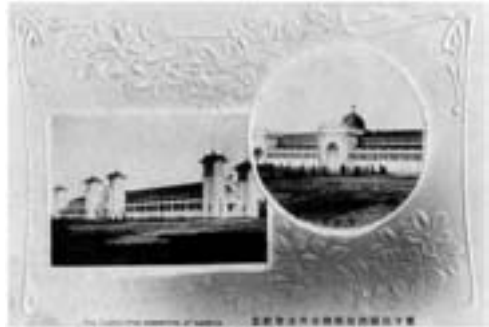
No.0046



No.0043



No.0047



No.0044



No.0048



No.0049



No.0045



No.0054



No.0050



No.0055



No.0051



No.0052



No.0056



No.0053

○都市と娯楽―演劇

明治末は、西欧化による影響で、新しい娯楽が生まれてきた。帝國劇場もその一つである。

明治四四年（一九一一）三月一日、渋沢栄一、大倉喜八郎等の手により日本初の洋式劇場として開場された。横河民輔の設計によるルネサンス様式の劇場であった。収容人員一七〇〇席すべてが椅子席で、貴賓席の上には鳩の彫刻がはねを休め、天井には洋画家和田英作の描く天女が舞っていたという。後に「今日は帝劇、明日は三越」という宣伝コピーが作られたくらいに、新しい時代の幕開けを象徴するものであった。イタリア人音楽家ローシーを招いてオペラを上演したほか、歌舞伎劇やシェイクスピア劇などが上演された。

No.0063は帝國劇場全景。No.0064は帝國劇場入り口正面大理石大柱。No.0065は帝國劇場裝飾大天井。No.0066は帝國劇場貴賓席及び一～四等席を望む。No.0067は帝國劇場貴賓席。No.0068は帝國劇場、二階食堂前の裝飾。

No.0069は新狂言「按針」。No.0070は、船大工内裏手の場。No.0071は「按針」ケント州シエリンナム自宅の場。No.0072は新狂言「一條大藏卿」大藏館曲舞の場。

No.0073も「一條大藏卿」。No.0074は「母」。いずれも銀座上方屋製。

○学校の興隆―学校

新しい日本の基盤を固めたものは、明治以降に進められた教養主義的な「教育」のあり方である。男子のための学校はもちろん、女子教育のための学校も作られ、各種職能学校もできた。「教育」が国を内側から支えたのである。

女学校は、明治三二年に「高等女学校令」が公布されて男子中学校とほぼ同格とされ、幅広い教養科目が設けられた。三十年代後半には高等教育機関として、日本女子大や女子英学塾（現・津田塾）なども創設された。

No.0075は、大分女学校校舎。左上に「皇太子殿下行啓記念樹」の写真。右上に記念印。左下には梅形の中央に「女」の校章。No.0076は、大分高等女学校創立十周年記念絵葉書の外袋。No.0077は、「なぎなた」に励む女学生の写真（長刀体操）。左下に図書室の風景写真。左上に「大分高等女学校創立十周年記念」印。

大分高等女学校は、現在の大分上野丘高校。昭和二三年に大分県立大分中学校、大分県立第一高等女学校、大分県立第二高等女学校、大分県立碩南中学校を廃止し、前三者を全日制、第四者を定時制（夜間）として統合し、新たに大分県立大分第一高等女学校を設置した。昭和二六年に現校名に改称。大分高等女学校は明治三三年に大分県立第一高等女学校として開設され、明治四十年に大分県立大分高等女学校と改称、女子師範学校併置した。明治四四年に女子師範学校



No.0060



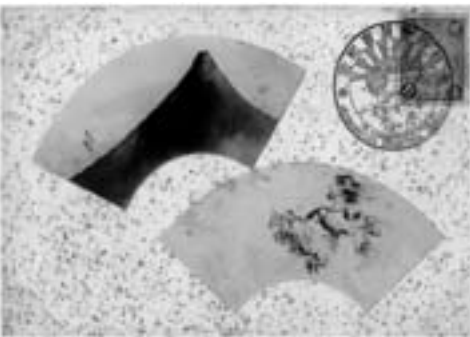
No.0057



No.0061



No.0058



No.0062



No.0059

博覧会の隆盛



No.0066



No.0063



No.0067



No.0064



No.0068



No.0065

帝国劇場



No.0072



No.0069



No.0073



No.0070



No.0074



No.0071

新劇

を分離。昭和五年に大分県立第一高等女学校と改称した（大分上野丘高校のあゆみ）。

No.0078は、「魔風恋風」より「高麗蔵による東吾」。春陽堂製造。「再版」とある。

明治三十八年（一九〇五）四月九日、明治座で江見水蔭の小説『兜の星影』を演じたのを、春陽堂が場面の写真をとりにて売りに出した。明治座の絵葉書を売り出したはじめ、『魔風恋風』は、小杉天外の小説で全二冊。才媛の女子学生初野を中心に、その崇拜者である純情可憐の子爵令嬢芳江、芳江の許婚の東大生東吾、初野に野心をもつ才子の美術家殿井など当時の男女学生の尖端的風俗と生態を描きつつ、恋愛、背信、死など劇的事件をからませている。明治三六年「読売新聞」に連載され、新聞小説界に画期的な好評を博した天外のもつとも有名な作品である（岩波ブックサーチャー「魔風恋風 全2冊」解説）。

女性のための高等教育の整備によって誕生した「女学生」は、解放の時代を象徴する一方で、セクシュアリティを攻撃するパッシングの言説にさらされた。『魔風恋風』は、「女学生の墮落」を自明の前提として書かれていることにも注目する必要がある（菅聡子「描く女性／描かれる女性」）。

No.0079は女学校運動会「姫獅子」。左下に滑稽新聞社発行。

宮武外骨（一八六七～一九五五年）の代表的な雑誌『滑稽新聞』は、東京での雑誌刊行に失敗した外骨が再起を賭けて大阪で刊行し

たもの。その内容は、腐敗した権力、これにこびるマスコミ、戦争に沸く庶民への風刺であった。

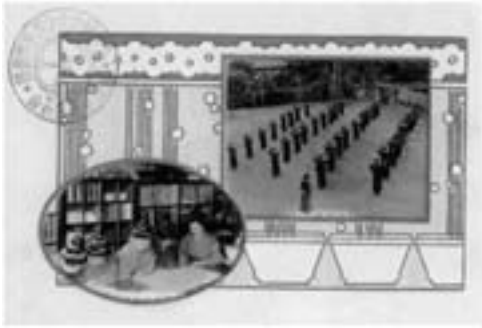
大阪の風土に合ったのか、『滑稽新聞』は売上を伸ばし、外骨の発行した雑誌の中でも最高の八万部を誇るにいたる。日露戦争開戦直後に発行した第六六号（明治三十七年二月十五日号）に、外骨は次の文章を掲げている（句読点を補った）。

▲我社の宣言 滑稽新聞社 戦争は平和を主義とする国家のなすべき事に非ず。然れども已むを得ざるに於ては已むを得ざるなり。茲に於て初めて正当防禦の語あり。先輩曰く戦争は野蛮なり、戦争は非義なり、文明の仇敵と罵つて、砲火相交ゆるが如きは矛盾の最も大なるもの、正義の軍旅と叫んで干戈相闘ふが如きは、ホコトンの最も甚だしきものと宜なり。矛盾は野蛮の武器、ホコトンは非義の極点。然るに我滑稽新聞社は国家の正当防禦として、次号以下毎回野蛮なる戦争を骨子とし、此非義なる戦争を皮肉として大に滑稽を利用せんと欲す。故に曰く、戦争は滑稽なり、滑稽の妙は矛盾ホコトンにありと。是れ我滑稽新聞社が大に野蛮非義たらんと欲する所以なり（古書の森日記）。

滑稽新聞社の「絵葉書世界」は、英国でも復刻発売されている。毒を含んだ明治パロディ精神の真骨頂である。

No.0080は、石川県立金沢工業学校運動会。一九〇七年の記念印がある。

石川県立工業高等学校は明治二十年（一八八七年）創立で、日本



No.0077



No.0075



No.0078



No.0076



No.0079

でも最も歴史のある工業高等学校である。創立者納富介次郎は九州佐賀藩士で、「現場に働く技術者の教育が第一である」との建学の志のもと、明治政府の命で石川県金沢の地に本校の前進である、「金沢工業学校」を創立し、その後、富山県高岡に現「富山県立高岡工業高等学校」、四国の香川県に現「香川県立高松工業高等学校」、九州佐賀県「佐賀県立有田工業高等学校」を作った。創立者を同じくするこの四校は、姉妹校として現在でも交流を深めている（石川県立工業高等学校HP）。

No.0081は、共立女子職業学校。鳩山春子、宮川保全氏と共に創立した。現在の学校法人共立女子学園（共立女子学園HP）。

No.0082は、東京高等工業学校校歌。東京高等工業学校は、明治十四年に東京職工学校として設立され、同二三年に東京工業学校と改称、ついで同三四年に東京高等工業学校と改称された。昭和四年に東京工業大学へ昇格（東京工業大学HP）。

No.0083は早稲田大学。総長大隈重信と学長高田早苗。右下に「Y.T.」がある。

高田早苗（安政七年三月十四日（一八六〇年四月四日）～昭和十三年（一九三七年）十二月三日）は、明治・大正・昭和期の政治家、政治学者、教育者、文芸批評家。衆議院議員、貴族院議員、早稲田大学総長、文部大臣などを歴任した。号は半峰。江戸・深川（現在の東京都江東区）に生まれる。明治十五年東京大学文学部政治学科と理財科を卒業後、法学者の小野梓に従って大隈重信の立憲改進黨

結党に参加する。また、大隈とともに東京専門学校（現在の早稲田大学）の設立にも参加し東京専門学校評議員・講師となり、早稲田の経営に力を注いだ。明治四四年（一九一一年）早稲田大学学長。大正十年（一九二一年）から昭和六年（一九三二年）まで同大総長となった。

No.0084は、早稲田大学創立二五周年記念。明治四十年十月二十日。大隈重信の銅像除幕式のあと、大隈邸で園遊会が催され、校歌「都の西北」が発表された。

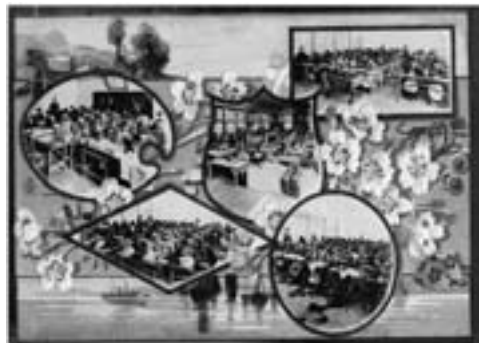
校歌「都の西北」を作詞した相馬御風は、明治・大正・昭和の三代にわたり抒情歌人、詩人、随筆家、小説家、自然主義評論家、作詞家と、文芸全般にわたって活躍した。明治四十年の早稲田大学創立二五周年に際し、大学や恩師に委嘱されて作詞した校歌「都の西北」は不朽の名作として今も歌い継がれている。



No.0083



No.0080



No.0081



No.0084



No.0082

《参考文献》

- ・原武史『天正天皇』（朝日選書663、朝日新聞社、二〇〇〇年）
- ・菅聡子「描く女性／描かれる女性」（小風秀雅編『日本の時代史23 アジアの帝国国家』所収、（吉川弘文館、二〇〇四年）
- ・朝倉治彦・稲村徹元編『新装版 明治世相編年辞典』（東京堂出版、平成九年）
- ・宮地正人監修『ビジュアル・ワイド明治時代館』（小学館、二〇〇五年）
- ・白井勝美、他編集『日本近現代人名辞典』（吉川弘文館、二〇〇一年）
- ・『国史大辞典』（吉川弘文館、二〇〇一年）
- ・フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』
<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%A1%E3%82%A4%E3%83%B3%E3%83%9A%E3%83%BC%E3%82%B8>
- ・大阪市立図書館イメージ情報データベース
<http://www.onlcity.osaka.jp/image/themes/theme11.html>
- ・愛知県図書館 郷土資料展 愛知の博覧会
http://www.aichi-pref.library.jp/chiki/jyousetsu_8.html
- ・大分上野丘高校のあゆみ
<http://otnauenogaoka-hoita-ed.jp/history.html>
- ・岩波ブックサーチャー
<http://www.iwanamicorp./BOOKS/31/9/311141+.html>
- ・古書の森日記 by Hisako 「2005年8月3日 百年前の事件（11）——『滑稽新聞』（明治37年7月5日号）」
<http://blog.liv.edoor.jp/hisako0918/archives/29541229.html>
- ・大阪府立中之島図書館 第8回大阪資料・古典籍室1小展示「宮武外骨の大阪」
http://www.library.pref.osaka.jp/nakato/shotenji/08_gaiko.html
- ・石川県立工業高等学校 HP

- <http://www.is hikawa-c.ed.jp/~kenkoh/annai/index.html>
- ・東京工業大学 HP 「沿革・歴史」
<http://www.titech.ac.jp/about-titech/j/origins-1.html>
- ・共立女子学園 HP
<http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/gaiyo2.html>

※本文中、辞典等を参照した場合は特に断らなかつた。なお、本稿は、平成十八年度帝塚山学院大学院内研究費助成「明治末年の社会風俗研究」の成果の一部である。